

# 巻 頭 言

教職課程センター長 蛭川 幹夫

2016年の4月に教職課程センターができて1年半が経ち、ここに教職課程センター紀要第三号が発刊されることになり大変嬉しく思います。

この間、教職課程センターは、2016年の教育職員免許法と同施行規則の改定に基づく課程認定への対応とともに、センターがめざすべき教職課程の質の保証ならびに向上や、教師をめざす学生へのサポート体制の強化に、職員一丸となって尽力を尽くしてきました。

特に、教員採用選択試験の受験をめざす学生へのサポートについては、まだまだ道半ばではありますが、平成31年度の教員採用選択試験において昨年を大幅に上回る合格者をだすなど、着実に成果をあげているところであります。これもひとえに学生の指導にあたられている相談員の先生方の熱意溢れるご指導の賜物でございます。

さて、平成27年3月の内閣総理大臣の諮問機関である教育再生実行会議の第6次提言、さらに同年12月の中央教育審議会からの「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」・「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学びあい、高めあう教育育成コミュニティの構築に向けて～」・「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」という三つの答申をうけ、平成29年3月に小学校および中学校、そして平成30年に高等学校の学習指導要領が改訂されました。

このように、戦後長く続いてきた教育制度が、現在大きく方向転換をしようとしています。そのような変化を踏まえ、本学はどのように取り組んでいけばいいのでしょうか。その答えを出すために、本号では「教職科目をどのように教えているのか」について特集を組み、現状把握と道標を確認しました。担当者の信念や現場での取り組みがリアルに描かれております。特集号に向けて、本学で教員免許更新制をご担当いただいている外部の先生からは、教育課程論の教え方について、政策に関わった知見も踏まえながら、教育課程論や改革の動向に関する最先端に触れることのできる論考をお寄せいただきました。

特集記事以外にも様々な論考が掲載されています。本学は、教員免許更新制開始から10年目を迎えました。その実施状況を報知する総括記事も掲載されております。今後、本学の取り組みを深化させていく上での参照点となる資料だと言えます。学内の先生方からは、特色ある実践についての報告お寄せいただき、学校教育にとどまらない教育の奥行きを知ることができます。本学卒業生の卒業論文を、学生論文として掲載しています。教職課程の運営には、知恵と協創が必要なことも確認できます。

最後になりましたが、城西大学の教職課程ならびにセンター紀要の充実と発展のために、今後とも関係各位の積極的な投稿をお願い申し上げます。